

今月の御教え

天地金乃神は、神、仏をいとわない。神道の身の上も仏教の身の上も、区別なしに守ってやる。神道も仏教も天地の間のものであるから、何派かに派などど、宗旨論をしたり、凝り固まったりするような狭い心を持ってはいけない。心を広く持って、世界を広く考えていかなければいけない。

……「天地は語る」第一五条……

解説 明治維新の復古神道により、今まで抑えられてきた神道が復権し、仏教に報復する事

態が起こると、神道と仏教の間に非難の応酬による熾烈な宗旨論争が始まりました。

そうした風潮に対して教祖・金光大神様は「相手の宗教、宗派を攻撃したり貶めたりするような狭い心になってはならない。心を広く持つ」と諭されたのであります。教祖様の、この様な寛容極まりなき視点の根拠は「神道も仏教も、その開祖や、その教えを伝えてこられた方々も、皆、この大天地の間に生を受けられた、天地の親神様の尊い愛し子である」との御思いからであります。

尚、今月は本部広前天地金乃神大祭の御比礼を頂き全国各地の教会において天地金乃神大祭が仕えられます。皆様共々に一層、信心の稽古に努めさせて頂きましょう